

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2001-183235
(P2001-183235A)

(43)公開日 平成13年7月6日(2001.7.6)

(51)Int.Cl.⁷
G 0 1 J 3/52

識別記号

F I
G 0 1 J 3/52

タームコード*(参考)
2 G 0 2 0

審査請求 未請求 請求項の数2 OL (全3頁)

(21)出願番号 特願平11-366207
(22)出願日 平成11年12月24日(1999.12.24)

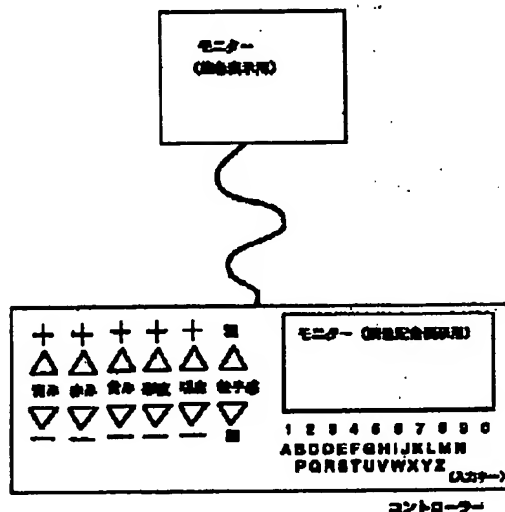
(71)出願人 000001409
関西ペイント株式会社
兵庫県尼崎市神崎町33番1号
(72)発明者 高橋 輝好
神奈川県平塚市東八幡4丁目17番1号 関
西ペイント株式会社内
Fターム(参考) 2G02D A408 DA05 DA16 DA35 DA52

(54)【発明の名称】 カラーモニタ色票を用いた調色配合決定方法

(57)【要約】

【課題】 車などの塗膜の補修塗装を行うにあたり、色紙を使用せず、塗料を調色して塗装することなく調色配合を簡単に決定することができる方法を提供する。

【解決手段】 塗色の調色配合がインプットされてなるデータベース記憶部、色表示部、該色表示部の色を変化させる色味調整部、及び色表示部の色に対応する調色配合を指示する調色配合指示部を有するカラーモニタ色票を用いて、補修箇所の塗膜の色に合うように色味調整部を動作して該色表示部の色を補修箇所の塗膜の色に合わせ、該色表示部の色の調色配合を表示させることを特徴とする調色配合決定方法。



コントローラ

【特許請求の範囲】

1
【請求項1】 塗色の調色配合がインプットされてなるデータベース記憶部、色表示部、該色表示部の色を変化させる色味調整部、及び色表示部の色に対応する調色配合を指示する調色配合指示部を有するカラーモニタ色票を用いて、補修箇所の塗膜の色に合うように色味調整部を動作して該色表示部の色を補修箇所の塗膜の色に合わせ、該色表示部の色の調色配合を表示させることを特徴とする調色配合決定方法。

【請求項2】 補修箇所の塗膜が車の塗膜である請求項1記載の調色配合決定方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、車などの塗膜の補修塗装を行うにあたり、実際に塗料を調色して塗装することなく調色配合を簡単に決定することができるカラーモニタ色票を用いた調色配合決定方法に関する。

【0002】

【従来の技術及びその課題】従来、自動車補修塗料の顧客先での調色作業において、調色配合の算出方法には、配合を設定した色紙による方法とカラーセンサーによって配合を計算する方法があった。

【0003】しかしながら、上記色紙による方法は、その設定調色配合が膨大な数であり、それに相当する色紙を準備しておく必要があり、また、新塗色が出ると設定調色配合が増え、色紙のストックが増大していく。さらに、塗膜性能向上などのため塗料材質や原色を変更した場合には、色紙を差し替えねばならず、その手間とコストが膨大でなるといった問題があった。

【0004】また、カラーセンサーによって配合を計算する方法では、カラーセンサー自体の精度とコストの問題があるとともに、実際に塗料を調色して塗装してみないと塗色を確認できないといった問題がある。

【0005】本発明の目的は、車などの塗膜の補修塗装を行うにあたり、色紙を使用することなく実際に塗料を調色して塗装することなく調色配合を簡単に決定することができる方法を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】すなわち、本発明は、塗色の調色配合がインプットされてなるデータベース記憶部、色表示部、該色表示部の色を変化させる色味調整部、及び色表示部の色に対応する調色配合を指示する調色配合指示部を有するカラーモニタ色票を用いて、補修箇所の塗膜の色に合うように色味調整部を動作して該色表示部の色を補修箇所の塗膜の色に合わせ、該色表示部の色の調色配合を表示させることを特徴とする調色配合決定方法を提供するものである。

【0007】

【発明の実施の形態】本発明の調色配合決定方法に用いるカラーモニタ色票は、塗色の調色配合がインプットさ

れてなるデータベース記憶部、色表示部、該色表示部の色を変化させる色味調整部、及び色表示部の色に対応する調色配合を指示する調色配合指示部を有する。

【0008】以下、図面に基づいて本発明方法を説明する。

【0009】図1は、本発明方法に用いるカラーモニタ色票の一例を示すモデル図である。図1において、色表示部であるカラーモニタに表示される色は、コントローラに設置された色味調整部のボタン（色相、明度、彩度、光輝感（粒子の粗さ感）などを調整するボタン）を動作することによって変化させることができる。目視にて補修箇所の車の塗膜の色に最も近いと考える色をカラーモニタに表示させ、このときの調色配合をコントローラに設置された調色配合指示部に表示させることができる。この調色配合は、データベース記憶部から取り込むことができるようになっている。データベース記憶部は、コントローラ又はホストコンピュータに設置されることができる。また、コントローラには、塗色番号、原色番号、配合量などを入力するための英数字などの入力ボタンが設けられている。

【0010】また、色表示部の色にある原色をある量入れるとどのような色になるかを色表示部に表示できるようにすることもできる。

【0011】図1において色表示部であるカラーモニタは、コントローラと比較的長いコードで結ばれており、カラーモニタは自由に移動させることができ、車などの塗膜補修箇所の間近で、カラーモニタに表示される色を補修箇所の塗膜の色に合わせることができる。また、図2に示すように、カラーモニタにマグネットを設置しておき、マグネットによってモニタを塗膜補修箇所に設置できるようにしてもよく、またカラーモニタが可動式で、角度を変えて色を対比することができるようになっていてもよい。

【0012】また、本発明方法において、カラーモニタ色票を、電話回線、光ケーブルなどによってホストコンピュータと繋ぎ、随時、ホストコンピュータからのデータにより塗色データを更新することを可能とすることができる。

【0013】

【発明の効果】本発明のカラーモニタ色票を用いた調色配合決定方法によって、色紙を使用せず、また実際に調色せずに、目で見て色の確認をする色紙の利点と同様にカラーモニタを目で見て色の確認ができ、調色配合を得ることができる。また、カラーモニタ色票の塗色データを随時更新することが可能である。

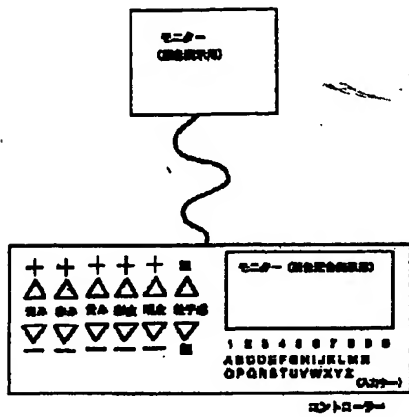
【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、本発明方法において用いるカラーモニタ色票の一例を示すモデル図である。

【図2】図2は、本発明方法において用いることができる、マグネットが装着され、モニタ可動式のカラーモニ

タ色票の一例を示す、カラーモニタ部を側面から見た図である。

【図1】



【図2】

